

【最新トピックス】

自らの学びをデザインする「セルフ学修ポートフォリオ」を導入

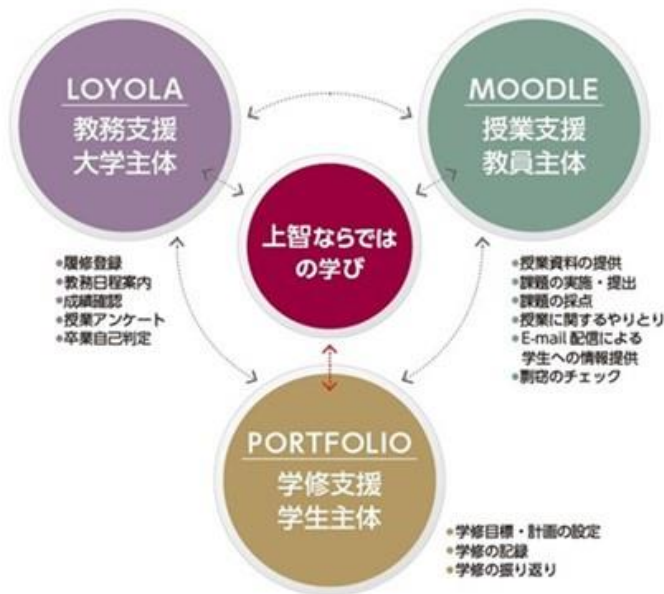
2023年4月より、学部正規生を対象に学生の自律的な学びを支援するツール「セルフ学修ポートフォリオ」が導入され、本格稼働することになりました。「セルフ学修ポートフォリオ」は学生が自らの学びを自律的に管理・確認していくことを支援するシステムで、学生が生涯学び続けられる能動的な学修姿勢を身につけ、自身のさらなる成長につなげることを目指しています。具体的には、学生自身が学修や学生生活における目標を設定し、大学での学びや活動を記録しながら、学生生活を継続的に振り返り、次に取り組むべき課題を見つけていく「学びのサイクル」の確立を促進します。

主なメニューの1つ「科目・記録」では、教務システムLoyolaから連携された自身の履修科目のデータが表示され、科目ごとに学修を記録したり、レポート等の成果物を登録することができます。また、「学修状況」メニューでは自身の学期ごとのGPA、修得単位数などがグラフで表示され、同じ学年の平均値と比較することができたり、他にも語学のスコアや留学時の経験、さらには課外活動についても記録することができ、各学年末にはこれまでの学修成果や目標の達成度合い、活動記録などを振り返り、次の学年の目標設定に生かすことができます。この記録の蓄積は、教員への相談時や、就職活動における自己分析ツールとしても役立ち、卒業時には自らが蓄積したデータを大学時代の歩みとして保存し、更なる学びへと活用していくことが期待されます。

「セルフ学修ポートフォリオ」の紹介動画は以下からご覧いただけます。

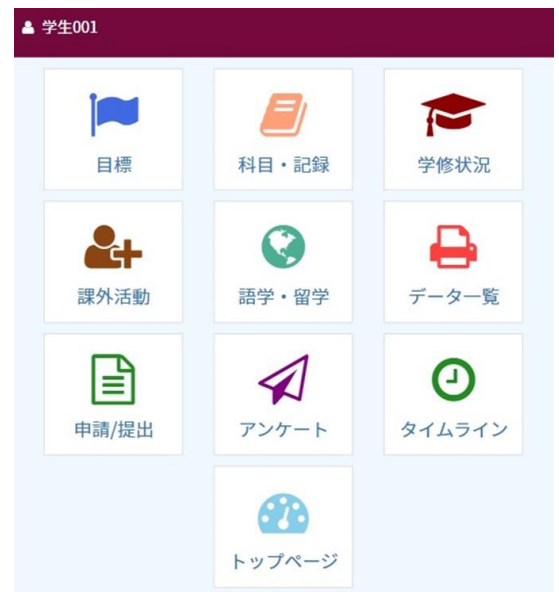
<https://piloti.sophia.ac.jp/jpn/academic/portfolio/>

●上智大学におけるセルフ学修ポートフォリオの位置づけ



セルフ学修ポートフォリオは、学生自身が「自律した学修者」として学びをデザインしていくためのツールです。教学支援システムの「Loyola (ロヨラ)」、授業支援システムの「Moodle (ムードル)」と連携しながら、上智大学ならではの学びをサポートします。

●「セルフ学修ポートフォリオ」のメニューアイコン



1. 2023年度の授業実施形態について

新型コロナウイルス感染症に関わる政府等の施策動向を踏まえ、本学では前年度に続きキャンパスでの対面を基本とした方針で授業を実施しています。これは、基本的な衛生対策を講じていけば、教室内での授業実施による感染は起こりにくいこと、ウィズコロナに向けて社会の受け止め方も大きな転換を迎えていることなども考慮しての判断となります。

一方、ここ数年の経験から、オンラインを積極的に活用した場合に高い学修効果が得られると判断された科目について

は、オンデマンド*1もしくは、Zoom等を利用する同時双方向型オンライン授業も継続して実施しています。

なお、今後も政府等の要請、本学や首都圏全体の感染状況等を考慮し、必要に応じて授業実施形態等について判断してまいります。変更があれば公式WEBサイトやLoyola(学生向け教学支援システム)で発信していきますので、適宜ご確認いただきますようお願いいたします。

*1: インターネット上で講義資料や動画を配信し、定められた期間内であれば時間や場所を選ばず受講できる授業形式

2. カリキュラム構成

各学科のカリキュラムは「全学共通科目」「語学科目」「学科科目」の3つで構成されています。

本学では、教養科目に相当する「全学共通科目」と併行して1年次から「学科科目」を履修します。大学では高校までとは違い、在籍する学部・学科のカリキュラムに基づき、将来の目標や進路も意識しながら、学生自身が綿密な履修計画を立てる必要があります。大学からは様々な情報が発信されますが、学生は自ら情報収集し、それを活用しながら行動していかなければなりません。これらの素養は、自ら考え、主体的に行動できる人材として社会に巣立っていくには必要なものです。学生には、履修要覧や掲示等に十分に注意し、履修計画で迷う時には学科の教員に相談するなど、自発的に行動していく姿勢が期待されます。

①「全学共通科目」

全学共通科目は、学生が4年間を通して、学科科目や語学科目と連携させながら、学びの幅を広げ、深めることができるカリキュラム体系になっています。上智大学の教育の根底にある「キリスト教ヒューマニズム」の精神を学び、様々な学びに必要な汎用的な能力を身に付け、幅広い知識と多角的な視座から、課題を見つけ、問いを立て、解決する力を養成する科目を提供しています。また、海外ボランティアや体験学習を組み込んだ実践型プログラムも多数用意されています。これらの科目を履修することで「他者のために、他者とともに」生きる人として、生涯学び続け、よりよい世界の実現に寄与するための基盤を作ることを目的としています。

必修 : 「キリスト教人間学」(1単位)、「身体のリベラルアーツ」(1単位)、「思考と表現」(2単位)、
「データサイエンス概論」(2単位)、「課題・視座・立場性を考える」(2単位)

選択必修: キリスト教人間学科目(2単位)、高学年向け科目(4単位)(3,4年次に履修)

選択 : 12単位

※2022年次生よりカリキュラムを変更しています(一部の学部・学科では単位数が異なります)。

②「語学科目」

1年次生が必修として学ぶ英語科目「ACADEMIC COMMUNICATION」は、各分野の知識と言語能力を同時に向上させる最新の英語教育方法「CLIL」に基づいており、入学後実施されるプレイスメント・テストをもとに7レベルに分かれて履修します(英文学科、英語学科、国際教養学科、理工学部英語コース、SPSFコースはカリキュラムが異なります)。英語を習得するだけでなく、小論文の書き方やプレゼンテーションの仕方など、英語の運用方法も学びます。1年次の秋学期からは春学期に学んだスキルを使い、それぞれの興味、関心、専門分野に応じた多彩な選択科目を履修することができます。2023年度より、さらなる改善を目指したカリキュラムの見直しを行い、従来の「ADVANCED II」を最高とした6レベルの上に、特に高い英語力を有する学生たち向けの第7のレベル「ADVANCED III」を新設しました。

また、私立大学としては最多規模の全 22 言語の外国語を学ぶことができます。英語以外の言語としては、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、中国語、韓国語、ロシア語、ポルトガル語、ラテン語、インドネシア語、フィリピン語、アラビア語、タイ語、ペルシア語、カンボジア語、ビルマ語、トルコ語、ベトナム語、ヒンディー語、スワヒリ語、(外国語としての)日本語を学ぶことができます。各学科の指定する選択必修言語に加え、複数種類の言語を学ぶ学生も多くいま

す。他に夏期・春期休暇の期間に交換留学協定校等で実施される海外短期語学講座を開講しています。

③「学科科目」

専門科目である学科科目は、学年を追って内容が高度になりますので、年度ごとに作成される『履修要覧』を参照し、順序立った履修計画を立て、段階的に修得していくことが望まれます。学科によっては、他学部・他学科の科目を卒業要件として認めており、学生は自分の興味や関心に応じた多様な履修計画を立てることができます。また、最近では全学的に英語で授業を行う科目が増えています。

3. 教育の特色

①文理ワンキャンパスの強み

文系、理系すべての学部が一つのキャンパスにあることで、多様な分野の科目、文理融合的な科目を履修することが可能です。全学共通科目だけでなく、専門科目にも他学部・他学科の学生が履修できる科目が多くあり、将来に向けて視野を広げられる環境です。

②新たな基盤教育の展開

2022年4月より新たな教育体系「基盤教育」を始動しました。「基盤教育」は全学共通科目の改組を中心に学部レベルのカリキュラムを大きく見直し、全学共通科目、語学科目、学部学科の専門科目の有機的連携を推進させることで、「自律的な学修者」の育成を目指すものです。2022年次生より、全学共通科目のカリキュラムを大幅に変更し、1、2年次に履修する必修科目と選択必修科目に続き、3、4年次では高学年科目を履修します。一定の専門性を身に付けた3、4年次生が、個別の専門領域を超えた学問横断的発想や、大学における知と現代社会との関係づけなどについて学ぶことにより、自身の専門性を深めるだけでなく、学修を通じて多様な視点を修得し、進路選択や卒業後の学びに生かしていけることを期待しています。

③外部機関との連携による多様な学びの機会

国際機関や企業との協定に基づいて開講される授業やインターンシップ科目など、外部機関との連携を活かした科目も数多く開講されています。受講した学生からは、実社会の事例から多くの刺激を受けたとの声も聞かれます。

◆インターンシップ科目

本学と協定を結んだ実習先(グローバル企業、国際機関の本部・日本代表部、国際協力団体、報道機関など)でインターンシップ(就業体験)を行い、事前・事後の講義受講や課題提出と合わせて取り組むことで全学共通科目(選択科目)の単位が付与されます。就業・実務経験を通じて、大学で学んだ専門知識や技能をグローバル社会の中でどのように活かすのか、あるいは自分が残りの大学生活で何を学ぶべきか、といった気づきを得るため、主体的に学ぶ姿勢が求められる科目です。当科目を履修するためには、書類選考、面接による選考に合格し、場合によっては実習先による審査を通過する必要があります。2022年度は約40件の実習先で対面、オンラインいずれかで実習を行うとともに、一部は海外でも実施しました。

【担当:グローバル教育センター】

4. 履修や成績評価(GPA)について

(1) 教学支援システム「Loyola」

履修に関する情報は本学公式HP上で参照できる『履修要覧』のほか、教学支援システム「Loyola」(WEB上のポータルサイト)を通じて学生に周知しています。履修登録や授業、試験に関する連絡等も基本的にLoyolaで行います。

(2)成績評価制度について

①成績評価制度の特徴

a. GPA方式の全学的採用

欧米で広く総合評価として使われているGPA(Grade Point Average)方式を採用しています。学生が受け取る成績表に記載され、学期ごとの努力や達成を測る、ひとつの目安となります。

評価は合格 4 段階(A、B、C、D)で、一般的な評価 A(100～80点)を評価A(100～90点)、B(89～80点)に分け、厳格に評価している点が特徴です。

		評価	評点	QPI※	内容
判定	合格	A	100～90点	4.0	特に優れた成績を示したもの
		B	89～80点	3.0	優れた成績を示したもの
		C	79～70点	2.0	妥当と認められる成績を示したもの
		D	69～60点	1.0	合格と認められるための最低限度の成績を示したもの
		P	—	—	合格と認められる成績を示したもの
	不合格	F	59点以下	0	合格を「A」「B」「C」「D」とする科目において、合格と認められるに足る成績を示さなかったもの
		X	—	—	合格を「P」とする科目において、合格と認められるに足る成績を示さなかったもの
無判定	履修中止	W	—	—	所定の期日までに履修中止の手続きをしたもの
	認定科目	N	—	—	習得単位として認定されたもの

※QPI: Quality Point Index

(参考)GPAは、学生の履修科目の成績に評価点を定め、各授業科目の評価点(QPI)に単位数を乗じて得た積の合計を、履修登録科目(W、N、P、Xとして表示された科目を除く)の総単位数で除して学生一人一人の総合平均点を求めるものです。

【GPA の計算式】

$$\frac{A \text{ の修得単位数} \times 4.0 + B \text{ の修得単位数} \times 3.0 + C \text{ の修得単位数} \times 2.0 + D \text{ の修得単位数} \times 1.0}{\text{履修登録科目の総単位数 (W,N,P,Xとして表示された科目を除く)}}$$

b. 不合格「F」の成績証明書記載

海外の多くの大学と同様に、成績証明書に不合格評価「F」(59点以下)を記載し、学生に真剣な取り組みを求めています。再履修で合格しても成績は上書きされません。以前の成績が消えることはなく、不合格と合格が併記されることになり、勉学の努力・意欲を読み取る材料となります。

c. 履修中止制度

学期途中で学生自ら履修を中止する制度とその期間を設けています。履修中止した科目の成績は、成績証明書には記載されず、GPAにも算入されません。これは、①履修登録をして授業に出席したものの授業の内容が勉強したいものと違っていた、②健康上、履修科目数を減らしたい等、学生側の事情を考慮したもので、不合格となることを避ける手段でもあります。

ただし、必修科目や語学科目など「履修中止」が認められない科目がありますので注意が必要です。

d. 「成績評価確認」制度

学生が学期末の成績評価(A～D、F)に疑問をもった場合に、担当教員に対して成績評価を確認できる制度があります。これは「評価」の公平性、透明性を確保するためのものです。

② GPA の活用

GPAは、大学院進学、留学の選考、奨学金採用などにあたって重要な要素となります。

③成業の見込みのない場合

上智大学では、成業の見込みのない場合の措置として、連続する2か年において合計32単位以上を修得できない場合は、退学となることを定めています(学則第40条)。

また、同時にドイツ語学科、フランス語学科、スペイン語学科、ロシア語学科およびポルトガル語学科においては、学科が指定する科目を2か年連続して修得できなかった場合も、同様に退学となることを定めています。厳しい措置ではありますが、一度立ち止まって、自らの進路を再確認する機会でもあります。

なお、そのような事態を未然に防ぐため、GPAが0.5未満であった学生に対して、学年末に所属学科から連絡し、個別に指導する制度を導入しています。この制度の趣旨は、学生自身が学生生活や勉強計画を振り返るとともに、今後の履修や勉強の進め方などについて学科教員と相談する機会を設けることにより、学生が自分自身で改善への道筋を見出す契機とすることにあります。

なお、勉強や心身の悩みについては、学科教員だけでなくカウンセラーや職員も、年間を通して希望があればいつでも相談に乗る体制を整えています。

*再入学について

退学した者が以前在籍していた学部・学科の審査を受けて再び入学できる「再入学」制度を設けています。上記の事由により退学となった場合も該当します。再入学できる年度は、退学の事由によって異なりますが、退学年度の翌年度または翌々年度以降です。ただし、再入学後に再び退学となった場合、再入学は認められません。

④クラス主任制度、およびアカデミックアドバイザー制度

各学部、学科の学年、クラスあるいはゼミ単位で、クラス主任(教員)がおり、学業や進路のこと、学生生活上の悩みなどのアドバイスを受けることができます。また、クラス主任とは別に各学科にアカデミックアドバイザーがおり、履修計画、成績など学習全般に関する相談や、留学、単位の換算などの海外勉学に関する相談について、指導、助言を行っています。

5. 学習支援

① Language Learning Commons (LLC)、英語学習アドバイザー

6号館1階のLanguage Learning Commons (LLC)は語学学習に特化した自律学習のための施設で、授業以外での語学学習を充実させるため、様々なサービスが提供されています。語学力向上に役立つ書籍の貸出やDVDの視聴サービスのほかに、自宅のできるE-learning教材が無料で利用できます。英語学習専門のアドバイザーに英語の勉強方法について相談することもできます。

大学院生・上級生や留学生が各言語の指導員となり、週1回の会話を中心とした少人数グループレッスンを行う「外国語コミュニケーショングループ」は多くの学生が利用しています。日本語を学習中の外国人留学生と外国語を学習中の日本人学生がランチタイムに交流するLanguage Exchangeも人気があります。TOEICやTOEFLの集中セミナー、英語のスピーキングやライティングに特化した企画や、リーディングマラソンなどの企画も実施していますので、大いに活用してもらうことを期待しています。

※授業期間外に実施するセミナーはオンラインで行う予定です。

【詳しくは、言語教育研究センターのページをご覧ください】 <http://www.sophia-cler.jp/llc/>

②中央図書館ラーニング・コモンズ

中央図書館地下1階の「ラーニング・コモンズ」は、講義を受けて知識を得る「受身」型から、自ら考え、友人と討論し、考えをまとめる「問題解決」型へと変化している学習に合わせた環境が整っています。紙の図書・雑誌ばかりでなく、データベース・電子ジャーナル等の学術資源も活用し、学習することができます。また、プレゼンテーションの準備もできる多目

的スペースとして使用でき、声を出す必要がある授業のオンライン受講も可能です。

ラーニング・コモンズではノートパソコン(2019年度に上智大学後援会よりご寄付)やプロジェクターの貸出も行っています。ラーニング・コモンズの一角にある学習支援席では、スタッフの大学院生にレポート・論文の書き方、情報収集の方法、プレゼンテーションの方法といった学習全般について相談することができます。

【詳しくは、図書館のページをご覧ください】 <https://www.lib.sophia.ac.jp/>

6. 教職・学芸員課程

教職・学芸員課程センターには専任の教員3名と職員が配置され、各学部・学科の課程担当教員と協力し、教員免許及び学芸員資格の取得を支援するために下記の業務を担当しています。

- ①教職課程に関する業務(教職課程履修のためのガイダンスの実施、履修相談への対応、各種実習手続き、教員免許申請手続き、証明書発行等)
- ②学芸員課程に関する業務(学芸員課程履修のためのガイダンスの実施、履修相談への対応、証明書発行等)
- ③教員養成制度、学芸員養成制度の改革への対応(文部科学省への認可申請・届出等)
- ④その他(教員採用試験対策支援、神学講座(免許法認定公開講座)開講、国家資格・受験資格関連証明書の作成、中高の教科書・指導書の貸出、学校でのボランティア情報の提供、連携教職大学院への推薦等)

【詳しくは、教職・学芸員課程センターのページをご覧ください】 <https://piloti.sophia.ac.jp/jpn/katei/>

7. 大学院進学

(1) 大学院の構成

上智大学大学院は、学部教育を担う9学部を基礎に11研究科、1学位プログラムで構成されており、1千数百名の大学院生が学んでいます。博士前期課程25専攻(修士課程含む)、博士後期課程23専攻および専門職学位課程としての法科大学院(ロースクール)に加えて、2023年度より、応用データサイエンス学位プログラムを開設しました。各研究科の研究内容など、詳しい情報は、「上智大学大学院案内」または大学ホームページをご覧ください。

(<https://www.sophia.ac.jp/jpn/academics/g/>)

(2) 大学院入学試験

大学院入試は専攻により募集／実施時期、選考方法および入学時期が異なります。日本語で授業を行う専攻は春(4月)入学で、多くの専攻は例年9月と2月の2回入試を実施しており、本学卒業見込者への筆記試験免除制度を実施している専攻もあります。英語で授業を行うグローバル社会専攻、地球環境学専攻国際環境コース、理工学専攻グリーンサイエンス・エンジニアリング領域は、春(4月)入学と秋(9月)入学があり、書類審査による選考を実施しています。

詳細については、大学院入試担当(TEL:03-3238-3517)あるいは法科大学院入試担当(TEL:03-3238-3108)までお問い合わせください。

(3) 早期卒業制度

大学院進学などを踏まえ、優秀な学生にはできるだけ早く、より高度な教育と研究を受けさせるべきだとの考え方に基づき、法学部・経済学部・総合人間科学部(教育学科・社会学科/2020年次生以降)・総合グローバル学部・国際教養学部・理工学部において早期卒業制度を導入しています。これは、優秀と認められる条件を満たした学生に、学部の3年間(または3年半)で学士の学位を授与する制度です。

大学院も同様に、一部の研究科専攻において早期修了制度を導入しています。